

## 一般診療所における成人百日咳症例の臨床的検討

荒木 潤, 田中 光

特定医療法人千住診療所, 千住病院

**【目的】** 2013年6月～2016年8月までに経験した成人百日咳症例を臨床的に検討したので報告する。

**【方法】** 2013年6月から2016年8月までに当診療所を受診し一度でもPT-IgG抗体が100以上を示した例を対象とした。

**【結果】** 症例は29例, 女性20例, 男性9例, 年齢は15歳～82歳で平均41.3歳。初発から受診まで平均18.4日, 14症例は他医受診し, 2例は2カ所受診していた。5例は咳喘息を疑われ1例はプレドニゾロン内服させられていた。初発症状は咳(28/29), 咽頭痛(20/28), 発熱(7/28)で, 受診時の症状としてはスタカート様咳嗽(29/29), whooping(23/26), 咳嘔気, 嘔吐(22/26), 夜間不眠(22/29), 胸痛(8/29), 咳失神(3/29), 夜間咳嗽(18/25), 夜間息苦しさ(4/29)。理学所見では咽頭発赤を認めた。検査所見でWBC, リンパ球数, CRPは正常で, FeNO値は37ppb以上が18例中7例であった。治療はクラリスロマイシン, 鎮咳剤を併用。治療期間は平均18.1日。合併症で喘息が3例みられた。

**【結論】** 当診療所受診の半数の症例が他医を一度以上受診し, 治療歴があり, 咳喘息と間違えられたりしており, 発作性咳嗽, whooping, 咳嘔気・嘔吐など特徴的所見を認めた場合, 百日咳を疑って早期に診断し, 治療することが大切と思われた。

**【キーワード】** 成人百日咳